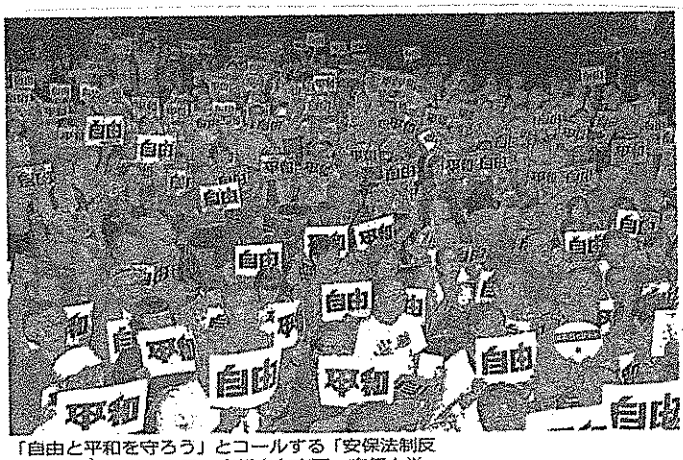
戦争法案阻止うねり広がる

京大有志集う



「自由と平和を守ろう」とコールする「安保法制反対集会」参加者＝1日、京都市左京区・京都大学

京都大学の教員らでつくる「自由と平和のための京大有志の会」は1日、京都大学・西部講堂（京都市左京区）で、「安保法制」反対集会を開き、400人が参加しました。

登壇した山室信一・京大教授は、シールズなど各世代の行動に触れ「日本国中をうねりのようにおおっている」と強調。時の政府の判断で「存立危機事態」を決められるなど法案の欠陥を指摘し「国会審議で希代のザル法案であるとわかってきた。通れば憲政史上最大の汚点になる」と述べました。

大学で

高校生でつくる「Tｅｅｎｓ Ｓｏｗｌ」（ティーンズソウル）の高校1年ふきさんは「どこの国とも武力によらず仲良くできるのが希望だ。それは理想ではないと思う。まだまだ法案をとめられるし、平和をつくる行動は続く」と話しました。

「ＳＥＡＬＤｓ ＫＡＮＳＡＩ」の女子学生は「発言に立つことで教師の道が断たれるかもという不安を常に感じている。でも黙っていることはできない。戦争法案が通った後の社会に生きるのは、いま声を上げられない子どもだからだ。どんな社会を残すかはおとなたちの責任だ」と訴えました。

「安全保障関連法案に反対するママの会」発起人の西郷南海子さん、「京大有志の会」発起人の藤原辰史准教授、立命館大や京都教育大、佛教大の教員らがスピーチ。

京都大学職員組合は「学問は、戦争の武器ではない」と宣言した「京大有志の会」の声明に曲を付け披露しました。

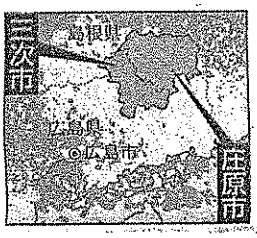
三次市でも「会」

広島 自民県議ら14人

地方議員

広島県三次市の自民党県議を含む地方議員有志14人が1日、戦争法案の廃案を求める「安保法案反対三次議員連盟」を結成しました。隣接する同県庄原市に続き、党派を超え地方から戦争法案反対の声を安倍政権に突きつける動きで、日本共産党の須山敏夫市議も参加しています。

代表に就任した國岡富郎市議（無所属）は、三次市役所内での会見で「市議会では法案の廃案を求める意見書を可決（7月）したが、それだけでいいのか。市民の中に入って民意を吸い上げ、戦争のない平和な社会を続けていくべきではないかということで立ち上げることになった」と語りました。



同連盟への働きかけは、市議会（定数26）のうち公明2市議を除く全議員に行われ、13人が参加。自民党県議会議員連盟所属の下森宏昭氏が相談役に就きました。法案の参院強行採決を狙う動きがある中、早急に署名用紙やビラを準備し、5日から街頭で宣伝・署名行動を始めるとしています。

会見で、無所属の大森俊和市議は、法案賛成の市議と議論した経験を紹介し、「彼らは疑問に反論できず、国民の多くが自民党、安倍首相を選んだのだからなどという。『自民に一票入れた人でも、命まで預けた人はいないはずだ』と言うと何も答えることができない」とのべました。

自民党県議ら首相に要望書

広島・庄原市民の会

広島県庄原市で20人の市議のうち19人が賛同するなどして結成された「ストップ・ザ・安保法制 庄原市民の会」の小林秀矩会長（自民党県議）は1日、首相官邸で戦争法案阻止の首相あて要望書を1万3200人分の署名とともに提出しました。

↓詳報②面

9/2 赤旗